SYLLABUS

2023 年度　秋学期

教職課程

青森公立大学

経営経済学部

目　　　次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	ページ
1	教育原論	②	必修	内海　隆	17
	生徒指導の理論と方法	①	必修	内海　隆	20
	健康とスポーツⅡ	①	必修	今村　秀司	34
2	教育課程論	①	必修	友田　博文	22
	憲法概論	②	必修	村山　美樹	9
	教育相談の理論と方法	①	必修	鈴木　郁生	24
	特別支援教育論	①	必修	神山　博	26
	法律と人間	②	必修（公民）	廣瀬　孝壽	36
	宗教哲学	②	必修（公民）	木鎌　耕一郎	6
3	職業指導	④	必修（商業）	三上　雅也	13
	総合的な学習の時間の指導法	①	必修	坂本　徹	39
	中等教科教育法（商業Ⅱ）	②	必修（商業）	砂場　孝一郎	28
	中等教科教育法（公民Ⅱ）	②	必修（公民）	長谷川　光治	31
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海　隆 鈴木　郁生	1
	教育実習	②	必修	内海　隆 鈴木　郁生	33
	教職実践演習（中・高）	②	必修	内海　隆 鈴木　郁生	3

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育実習事前事後指導	１単位	教職科目（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
鈴木　郁生・内海　隆 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkashi	時間：授業時に提示する。 場所：同　上	講義・演習

〔科目の概要〕

春学期においては、教育実習事前指導として、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案（授業案）の作成および板書指導も含めた模擬授業の実践的な指導を行う。

秋学期の事後指導では、教育実習期間中に学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて、実習報告の形式で総括し、教職実践演習につなげる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、教育実習生として高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性も考えることにつながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および学習（教科）指導などの基礎・基本となる内容を確実におさえる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば回数も含めて臨機応変に対応する。

〔教科書〕

本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を配布する。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

必要に応じて提示する。

〔前提科目〕

3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法（商業Ⅰ・Ⅱ）」、「中等教科教育法（公民Ⅰ・Ⅱ）」、「商業実習」

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

事前指導（模擬授業等含む）及び事後指導（実習報告発表、所定のレポート）、教育実習校からの教育実習報告書（評価シート含む）、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。

なお、実際の評価にあたっては、2人の専任教員による。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B:　79～70 点
C:　69～60 点
D:　59～50 点
F:　49～　0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に出向いて行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分にしておくことが大切である。なお、　実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：事前指導① 内　容：教育実習の目的と意義、教育実習の留意点 教科書・指定図書　『教育実習の手引き』
第２回	テーマ（何を学ぶか）：事前指導② 内　容：授業参観の方法と教材研究 　　　　『教育実習日誌』について 教科書・指定図書　（『教育実習の手引き』ほか）
第３回	テーマ（何を学ぶか）：事前指導③ 内　容：学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞 教科書・指定図書　（『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴）
第４回	テーマ（何を学ぶか）：事前指導④ 内　容：学習指導案作成と模擬授業（1） 教科書・指定図書　（『教育実習の手引き』、『学習指導要領』）ほか）
第５回	テーマ（何を学ぶか）：事前指導⑤ 内　容：　学習指導案作成と模擬授業（2） 教科書・指定図書　（『教育実習の手引き』、『学習指導要領』）ほか）
第６回	テーマ（何を学ぶか）：事後指導① 内　容：教育実習アンケート調査、教育実習報告、報告レポート作成 教科書・指定図書　（『教育実習日誌』ほか）
第７回	テーマ（何を学ぶか）：事後指導② 内　容：教育実習報告、報告レポート作成 教科書・指定図書　（『教育実習日誌』ほか）
試　験	実施しない。事後指導時に指定の様式に即した教育実習報告書提出。

〔科目名〕
教職実践演習

〔単位数〕
２単位

〔科目区分〕
教職課程(必修)

〔担当者〕
内海隆・鈴木郁生
UCHIUMI Takashi・SUZUKI Ikuo

〔オフィス・アワー〕
時間:授業開始時に明示する
場所:614 研究室(鈴木)・504 研究室(内海)

〔授業の方法〕
演習

〔科目の概要〕
本科目は、多くの学生が教育実習を終えている 4 年生の秋学期に開講される。すなわち、教職課程の締めくくりとして位置づけられる科目である。この授業を通して、教員に必要とされる知識技能修得の確認、およびこれまでの学修を統合・深化し、実践的な力としてもらいたい。そのため、教職の意義や責任に対する意識、社会性や対人関係能力、生徒理解と HR 経営、教科内容への理解と指導力などに関する主体的な学習の場とする。
具体的には、4 年間蓄積してきた履修カルテを用いて自分の知識技能を確認し、学習すべき内容を自ら選ぶ。また演習を中心とし、学生の討論、発表などに重点をおくものにする。更に、教育実践に対する理解と意識を深めるために、模擬授業や学外での見学なども行う。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
「教職実践演習」の主旨は「当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする」となっており、本学でもこれを踏まえた授業展開を行う。そのため教職課程の全科目のまとめを行うことになる。教員としての資質・技能を見直し、将来手にする教員免許状に相応しい力を身につけて欲しい。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕
これまでの学修の確認と深化を中間目標として掲げる。最終的には、高校教員としての豊かな資質、単に教科の指導力だけでなく、幅広い教養、社会的関心、人間関係形成のための基本的能力、対人関係を形作るコミュニケーション能力、生徒や子どもから信頼感を得られる人間性などを身につけることを期待する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
おおむね良好な評価であった。今後も展開を工夫し改善に努めたい。

〔教科書〕
なし

〔指定図書〕
『倫理』東京書籍　2　東書　倫理 701
『倫理』東京書籍　2　東書　政経 701
『詳述政治・経済』実教出版　政経 702
『最新政治・経済』実教出版　政経 703
『詳述倫理』実教出版　倫理 702
『高等学校　政治・経済』第一学習社　183　第一　政経 706
『高等学校　倫理』第一学習社　183　第一　倫理 705
『高等学校　新倫理』清水書院　35　清水　倫理 703
『高等学校　政治・経済』清水書院　35　清水　政経 704
『倫理』数研出版　104　数研　倫理 704
『政治・経済』数研出版　104　数研　政経 705

〔参考書〕
授業時に適宜紹介する。

〔前提科目〕
なし。
ただし、履修カルテの記入が条件となる。そのため授業開始前に、履修カルテを完成させておくこと。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
授業参加態度、授業貢献、レポート等の課題を通して、総合的に判断する。

〔評価の基準及びスケール〕
A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
学生自身が考え、理解を深めていけるように学生の主体性を引き出す授業を心掛けたい。受講者も未来の教師として、積極的に課題に取り組んでもらいたい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション・模擬授業準備 内　容:授業展開についてのオリエンテーションを行う。そして、次回以降の模擬授業の内容を決め、授業展開を考察する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業準備 内　容:模擬授業にむけて、資料および指導案作成を行う。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業1 内　容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):模擬授業2 内　容:選択した教科・科目について、模擬授業を行う。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):教職に関する学修の振り返り 内　容: 履修カルテを基に、教職課程に関する学修の振り返りを行う。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):学習テーマの設定 内　容:教職課程に関するグループ学習を行う。そのテーマは、各自履修カルテを基に設定する。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):調査結果のグループ内発表及び討論 内　容:調査したテーマについて、グループ内で発表し、討論を行う。

	教科書・指定図書
第 8 回	テーマ（何を学ぶか）：調査結果の発表および討論 内　容：調査したテーマについて、授業全体での発表を行う。また、学外学習についてのガイダンスも行う。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ（何を学ぶか）：学外学習 内　容：学外施設を訪問し、見学学習を行う。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ（何を学ぶか）：学外学習 内　容：学外施設を訪問し、見学学習を行う。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ（何を学ぶか）：学外学習の振り返り 内　容：グループ活動として、学外学習についての振り返りを行う。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）：学外学習の振り返り 内　容：グループ毎に学外学習について討論し、それを基にした発表を行う。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）：教材作成 内　容：特定のテーマについてグループ毎に教材を作成し、幅広い授業・HR 展開について考察する。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ（何を学ぶか）：教材作成・発表 内　容：作成した教材について発表、模擬授業を行う。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）：教職に関する資質能力の確認と総括 内　容：授業での学習内容と履修カルテを基に、教職に関する各自の資質能力を確認し総括する。 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
宗教哲学	２単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
木鎌　耕一郎	**時間：授業開始前、終了後** **場所：教室、講師控室**	講義

〔科目の概要〕
本講義は、宗教学が扱う基礎的な問題を理解した上で、西洋の宗教思想、なかでもユダヤ教とキリスト教の宗教思想における主要な諸問題を扱います。西洋思想を学ぶために、ユダヤ教・キリスト教を抜きに考えることはできません。このことは皆さんが専門的に学修する社会科学の分野においてもあてはまる場合が多いと思います。キリスト教はユダヤ教の宗教的伝統の中から成立し、ギリシャ哲学、ヘレニズム思想の影響を受けてヨーロッパを舞台に展開し、哲学思想のみならず文化、芸術、社会制度に至るまで様々な影響を遺しています。またユダヤ教とキリスト教の関係史は、現代の国際
社会における諸々の事象を読み解くうえでも示唆に富んでいます。本講義では、宗教思想の諸問題を、それらが生起した具体的な時代状況や社会的文脈を解説しながら考えていきます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
国際社会や地域社会で、多様な立場や価値観に基づく対立や闘争が見られる中で、異なる価値観を持つ者が存在することを知り、自らがその直中に共に生きていることを知り、互いに尊重し、自然界における人間の分際を弁えることは、極めて重要な現代的要請です。そのような姿勢は、大学での学びを経て、社会の様々な場面で活躍する「教養人」として期待される資質のひとつでもあります。「宗教哲学」の学びもその一助になるでしょう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕
・宗教学が扱う基礎的な諸問題を理解し、説明できる。
・ユダヤ教とキリスト教の宗教思想の基礎知識を身につけ、基本的な概念について説明できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕
なし（毎回、資料を配布します）

〔指定図書〕
なし

〔参考書〕
・関根清三『ギリシア・ヘブライの倫理思想』東京大学出版会
・加藤隆『一神教の誕生 ： ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書
・北森嘉蔵『聖書と西洋精神史』教文館
・市川裕『ユダヤ教の歴史』山川出版社
・竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社
・山田晶『トマス・アクィナスのキリスト論』創文社
＊その他、授業中に紹介します。

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
講義期間中に複数回課す小テストおよびリアクションペーパーによって評価します。

〔評価の基準及びスケール〕
以下の通りとします。
A 80 点以上
B 80 点未満 70 点以上
C 70 点未満 60 点以上
D 60 点未満 50 点以上
F 50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
・予習として、シラバスを参考に、用語の意味等を調べておくと理解度が深まるでしょう。
・受講環境を保持するために、退室を願うことがあります。
・質問は授業中であっても歓迎します。

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 宗教の起源 内 容: 考古学的成果に見る宗教の萌芽、19 世紀の宗教研究、アニミズム 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):神話 内 容: 神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、神話批判 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):儀礼 内 容:宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、通過儀礼(イニシエーション) 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):諸宗教の礼拝形式 内 容:祈りの表現、汚れと清め、神道、仏教、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):日本人の宗教観 内 容:宗教統計調査、宗教意識の国際比較、神道の二面性、仏教の伝来、神仏習合 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):近代日本の宗教政策 内 容:国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令、神社合祀令、戦後の靖国問題 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):国教制度と政教分離 内 容:西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):日本文学にみるキリスト教の受容 内 容:明治以降の日本宣教、キリスト教と出会った文学者、芥川龍之介、遠藤周作 教科書・指定図書

第9回	テーマ(何を学ぶか): 聖書の成立史・翻訳史 内 容: 正典の確定、西洋における聖書翻訳、日本における聖書翻訳 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教の成立と信仰構造 内 容:原因譚神話、人間の創造 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):一神教と選民思想 内 容:悔悛と堕落の循環構造、知恵文学、黙示文学、神義論 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): ユダヤ教イエス派(原始キリスト教団)の信仰と新約聖書の成立 内 容:新約聖書の成立と構造、隣人愛と愛敵 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):洗礼者ヨハネとイエスの「神の国」観 内 容:第二神殿時代の宗教的政治的状況、原罪の思想 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の関係史 内 容:反ユダヤ主義、反セム主義、ハスカラ 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):ユダヤ教とキリスト教の宗教間対話 内 容:宗教間対話、第二バチカン公会議 教科書・指定図書
試 験	

（様式１）

〔科目名〕 憲法概論		〔単位数〕 ２単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 村山美樹	〔オフィス・アワー〕 時間:授業中に指示します。 場所:授業中に指示します。		〔授業の方法〕 講義形式

〔科目の概要〕

この授業では、憲法学の「人権」および「統治」という二つの領域のうちの主要論点を学んでいきます。ヘアスタイルを規律する校則の憲法適合性、就職における 男女差別、家族・婚姻の社会的な変化、「自粛要請」と営業の自由の関係等... 人権論は、生活するなかで重要な法的問題に解決の筋道 を提示してくれるという意味で、従来から比較的身近に感じられることが多い学問 であったかもしれません。近時ではさらに、SDGs（持続可能な開発目標）、ESG（環境・社会・企業統治）への関心が社会的に高まっていることもあり、基本的人権に対する理解 は、一般的な教養の枠におさまらない、社会生活において人々が身に着ける必須のスキルとしての地位を獲得しつつあります。本講義 は、そうした素養を参加者が会得することも一つの目標として進めていきます。

憲法は、中学・高校までに公民科目の中で教わった者も多いでしょう。また、政治のニュースでもしばしば憲法は取り上げられるため、日本国憲法については、他の法律科目よりも、既知の部分が多いかもしれません。また、憲法は条文の数が少なく簡単そうに思えるかもしれません。ただ、それだけに「解釈」が重要となってきます。

こうした特徴をもつ憲法について、「人権」については、人権の成り立ちのほか、幸福追求権、表現の自由、平等について扱います。「統治」については、人権を守るために置かれる国家の統治制度について扱います。とりわけ、国家はどのような原理で統治され、国会、内閣、裁判所といった国家機関はどのような権限が憲法によって与えられているのかについて講義します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

憲法という法は、私たち一般市民に向けられた法ではなく、公権力を拘束するための法です。なぜ、そういう性格の法が必要であるのかという点を学ぶことを通じて、現在のニュースを憲法学的な観点から批評することができるようになります。「市民」とはどのような能力を備えた存在であるのか、考えていきましょう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

授業の目標は、① 人権分野・統治分野の論点につき、自らの言葉で説明できるようになること、および② 国際水準の人権意識を身に着けることです。これらを達成するためには、日々自ら学習する時間を設けること、および、SNS 等のみに頼らない、自主的な情報収集が求められます。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

担当者は今期が初の開講なので、特に記載することはありません。

〔教科書〕

毎回配布するレジュメ・資料を使用します。そのほか参考書については授業中に紹介します。

〔指定図書〕

毎回配布するレジュメ・資料を使用します。そのほか参考書については授業中に紹介します。

〔参考書〕

毎回配布するレジュメ･資料を使用します。そのほか参考書については授業中に紹介します。

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

受講者には 3 回ごとの内容を振り返るワークシートに取り組んでもらいます。それに基づいて成績をつけます。1 ワークシート 20 点×5。

〔評価の基準及びスケール〕

ワークシートでの点数が 50 点以上で単位は認定されます。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

憲法の授業は、人権や統治機構がなぜ重要なものであるのかという点を、理知的に理解するところからスタートします。そのスタート地点に立つためには、まずは歴史の振り返りが必要です。余裕があれば、市民革命とはどのようなものであったのか、改めて勉強しなおしてみましょう。

〔実務経歴〕

特段記載すべきことはありません。

授業スケジュール	
第 1 回	テーマ（何を学ぶか）： 人権の成り立ち 内　容：人権概念の由来について学ぶ。近代市民革命がいかなる意味のものであったかを復習する。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書･指定図書　:配布レジュメを使用。
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：幸福追求権とはどのような権利か 内　容：憲法 13 条の幸福追求権や、個人の尊厳とはいかなる意味かという点について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書･指定図書:配布レジュメを使用。
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：自己決定権の地位 内　容：自己決定権とはいかなる概念か。また、日本国憲法においてはどのような位置づけであるのかという点について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。

	復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):表現の自由の重要性 内　容: 表現の自由とはいかなるものか。またなぜ重要なものといえるのかという点について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):表現内容規制(名誉とプライバシー) 内　容:表現内容規制とはいかなるものかを学ぶ。またそのなかでも名誉やプライバシーに関わる規制はどのように扱うべきか、考察する。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):少年犯罪と推知報道 内　容: 少年犯罪に関する報道はどのようにあるべきかという点について、それまでの表現の自由についての学習から得た知見を用いつつ考察する。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):平等とはなにか 内　容: 平等とは歴史的にどのように考えられてきたのかという点について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):家族と平等① 内　容:家族と平等の問題について学ぶ。とりわけ尊属殺重罰規定違憲判決や非嫡出子相続分判決について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):家族と平等② 内　容:家族と平等の問題について学ぶ。とりわけ夫婦別姓や同性婚の憲法問題について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):国会とはなにか 内　容:国民の代表からなる議会の沿革を概観したうえで、国会の権限等について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):議院内閣制の意義 内　容: 内閣について概説したのちに、議院内閣制の特徴について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):「衆議院の解散」の根拠 内　容: 衆議院の解散がいかなる効果をもつものかという点について学び、その条文上の根拠について考察する。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用

第13回	テーマ(何を学ぶか):日本の裁判所の特徴 内　容: 日本の裁判所の構成や違憲審査の方法について学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第14回	テーマ(何を学ぶか):違憲審査制の性格 内　容: 違憲審査制について、判例を概観しつつ学ぶ。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
第15回	テーマ(何を学ぶか):立法不作為の裁き方 内　容:立法不作為とは何かという点について理解を深めたのち、それを裁判で争う方法の是非について考察する。 予習は、レジュメにあらかじめ目を通しておくこと。 復習は、レジュメの最後に記載されている確認問題を解くこと。 教科書・指定図書:配布レジュメを使用
試 験	試験は実施しません。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
職業指導	４単位	教職科目（教科必修） 経営学科（選択）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三上　雅也	**時間**：初回の講義で連絡する **場所**：同上	講義

〔科目の概要〕

本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する課程において、学校で行われる職業指導（近年は「進路指導」「キャリア教育」として取り扱われることが多い。）がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面において、どのような指導が行われているのかなど、教育免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導・キャリア教育についての基本的な理論・考え方について講義を進めていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論と方法の習得につながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにおいている。したがって、今日のキャリア教育（論）の経緯などにも触れながら、講義全体を通じて、望ましい勤労観・職業観の確立に努める。なお、学士力や社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との交流（リレーション）する力を身につけるため、講義形式のほかに意見を求める双方向の授業やグループ・ワーク等のエクササイズも取り入れた授業展開をする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある4単位（30時間）であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、エクササイズや発表なども積極的に導入した授業展開を予定している。また、授業回数が多いので、内容の節目で「まとめと確認」を行う。

〔教科書〕

文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省のHPで確認できる）

〔指定図書〕

特に指定しない

〔参考書〕

佐藤　史人　他「新時代のキャリア教育と職業指導」法律文化社
寺田　盛紀「日本の職業教育」晃洋書房

〔前提科目〕

教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」など。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義時のワークシート（簡易なレポート含む）作成・提出。
評価は、ワークシートの提出状況、記載内容及び試験（レポート）の結果を踏まえて行う。
欠席が全講義回数の1/3を超える場合は単位認定の対象外とする。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80点
B:　79～70点
C:　69～60点
D:　59～50点
F:　49～　0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義はパワーポイント等で適宜資料を提示する。講義をしっかり聞き、ワークシートを作成し提出すること。 通常の講義形式の授業形態のほかにグループワークなども実施する予定であるので、授業に主体的に参画するようにする。欠席する場合は、連絡・報告をすること。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内　容:科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、「評価」と基準等について 教科書・指定図書　スライド投影
第2回	テーマ(何を学ぶか):職業の語義と種類と産業構造の変化と職業1 内　容:職業の語義と職業の種類について 　　　　戦後の混乱から高度成長時代について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第3回	テーマ(何を学ぶか):産業構造の変化と職業2 内　容:安定成長時代から Iot と AI の時代について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第4回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の特徴について1 内　容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の特徴について2 内　容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第6回	テーマ(何を学ぶか):キャリア開発と職業指導 内　容:キャリア開発と職業指導について考える 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第7回	テーマ(何を学ぶか):職業指導について 内　容:職業指導、進路指導及びキャリア教育について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第8回	テーマ(何を学ぶか):職業指導の指導領域 内　容:職業指導が行なわれている場所について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第9回	テーマ(何を学ぶか):職業相談の役割 内　容:職業相談と進路相談について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第10回	テーマ(何を学ぶか):職業適性とその分類 内　容:職業適性について知る 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート

第 11 回	テーマ（何を学ぶか）：職業適性に関する検査 内　容：職業適性検査の具体について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）：学校におけるキャリア開発と支援 内　容：義務教育学校におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）：高等学校におけるキャリア開発と支援 内　容：商業系学科におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 14 回	テーマ（何を学ぶか）：雇用に関する権利と義務 内　容：雇用者と被雇用者のトラブルについて 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）：世界のキャリア開発と支援　1 内　容：海外の地域の特色と日本との違い 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 16 回	テーマ（何を学ぶか）：世界のキャリア開発と支援　2 内　容：海外の地域の特色と日本との違い 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 17 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育の必要性と意義　1 内　容：若者の「社会的・職業的自立」 「学校から社会・職業への移行」を巡る経緯と現状 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 18 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育の必要性と意義　2 内　容：キャリ教育・職業教育の課題と基本的方向性 発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 19 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育の必要性と意義　3 内　容：高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実方策 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 20 回	テーマ（何を学ぶか）：「キャリア発達」 内　容：ライフ・キャリアの虹について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 21 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育と職業教育と進路指導 内　容：職業教育を通したキャリア教育の重要性 進路指導の定義と諸活動 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 22 回	テーマ（何を学ぶか）：高等学校におけるキャリア教育の推進　1 内　容：設置形態、学科の特質に応じたキャリア教育 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 23 回	テーマ（何を学ぶか）：高等学校におけるキャリア教育の推進　2 内　容：校内組織の整備の推進 計画の作成について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート

第 24 回	テーマ（何を学ぶか）：高等学校におけるキャリア教育の推進　3 内　容：連携の推進 　　　　キャリア教育の評価 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 25 回	テーマ（何を学ぶか）：高等学校におけるキャリア教育実践 内　容：高等学校におけるキャリア発達 　　　　系統的なキャリア教育の取組 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 26 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育・商業教育の在り方　1 内　容：商業高校における体系的なキャリア教育について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 27 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育・商業教育の在り方　2 内　容：将来のスペシャリストの育成 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 28 回	テーマ（何を学ぶか）：キャリア教育・商業教育の在り方　3 内　容：商業教育について 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 29 回	テーマ（何を学ぶか）：本県におけるキャリア教育　1 内　容：　キャリア教育の指針（総論編） 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
第 30 回	テーマ（何を学ぶか）：本県におけるキャリア教育　2 内　容：　キャリア・パスポート 教科書・指定図書　スライド投影、ワークシート
試　験	レポート

（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育原論	2 単位	教職課程（必修）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
内海　隆 Uchiumi Takashi	**時間**：講義のオリエンテーション時に提示する **場所**：研究室（504）	講義

〔科目の概要〕

教師を目指す上での教職に関する基礎・基本となることを確実に押さえるとともに、教育学的な思考を身につけ、日常の社会現象の中にある教育現象を見る眼と力を養う。また、一人ひとりが教育についての問題意識と自らの意見を持てるような授業を展開する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

一年時の春学期に配当してある学校教育・教師論を中心とした「教職概論」の内容を踏まえ、実践の学として教育の原論的視点から深め、視野を広げる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

開放制教職課程の環境を踏まえ、教育の持つ意味、目的、理念等、教育に関する基礎的理解とわが国および諸外国における教育の歴史の概観、主要な人物の教育論等を理解するとともに、教育の諸課題と展望を学ぶ。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

今年度が最初の担当なので講義の途中で授業の展開に関するコメントをもらいながら授業を展開する。

〔教科書〕
使用しない。担当教員作成の講義内容をまとめた冊子を配布する。

〔指定図書〕
なし。

〔参考書〕
講義の中で、随時、紹介する。

〔前提科目〕
教職概論

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

期末試験とレポート提出を求める。評価の割合は、筆記試験（8割）とレポート（2割）で総合評価する。なお、評価の対象外であるが、授業における発表、内容確認のクイズも実施する。

〔評価の基準及びスケール〕
A:80 点以上
B:70～79 点
C:60～69 点
D:50～59 点
F:49～0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義が、履修する学生の皆さんにとって、将来、教職・教師を目指す強い動機付けになり、学校教育に対する興味と理解が深まるように精一杯努力して講義しますので、毎時の"復習"をするようにしてください。
教壇に立つ訓練として、毎時、一人指名して、前時の授業内容を発表(3分程度)してもらいますので、欠席等の場合には事前事後にかかわらず連絡をして下さい。(授業内容のフォローもします。)

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション(講義の目的と授業の進め方) 内 容: 「教育原論」について、「教育」の言葉の意味、履修の動機等の紹介 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):教育(教育行為)を考える 内 容:成長・発達と学習、教育の必要性と可能性 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):教育観の類型 内 容:個人、国家・社会、文化的教育観 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):教育の目的 内 容:教育目的論の構造、法律にみる教育目的 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):近代以前の諸外国の教育と教育思想 内 容:古代ギリシャ、ローマの教育、キリスト教の教育観 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):近代以降の諸外国の教育と教育思想 内 容:国家と教育、主要な人物(ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ等)の教育思想 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):近代以前のわが国の教育と教育思想 内 容:記紀判読による大学寮と貢挙制度、幕藩体制と教育 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):近代以降のわが国の教育と教育思想 内 容:近代国家と教育、「学制」公布、「教育勅語」とその周辺、大正時代の新教育 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):現代のわが国の教育と教育基本法体制 内 容:教育基本法と戦後の教育 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):歴史から展望する新しい教育 (*評価レポートの提示) 内 容:国家と教育、社会と教育 教科書・指定図書

第 11 回	テーマ（何を学ぶか）：家庭教育の現状と課題 内　容：子育ての変容と家庭教育、子どもの貧困、子ども家庭庁 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）：社会教育、生涯学習の現状と課題 内　容：社会教育と生涯学習、教育基本法と生涯学習 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）：教育課程と学習指導要領 内　容：教育内容の変遷と学習指導要領 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ（何を学ぶか）：学校教育の現状と課題 内　容：学校の機能と役割、学校の組織と運営、後期中等教育（高等学校）の機能・役割の変遷 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）：教育改革の動向と課題（＊評価レポートの提示② ） 内　容：現代社会の教育課題（生きる力、キャリア教育等）と教育改革 教科書・指定図書
試 験	実施する。筆記試験（60 分）、＊配布プリント冊子ほか資料、自筆ノート持ち込み可

〔科目名〕
生徒指導の理論と方法

〔単位数〕
１単位

〔科目区分〕
教職科目（必修）

〔担当者〕
内 海　隆
Uchiumi Takashi

〔オフィス・アワー〕
時間：授業時に提示
場所：504 研究室

〔授業の方法〕
講義

〔科目の概要〕
学校は、生徒にとって教科を学ぶ場であると同時に人格形成の場でもある。この人格形成をさまざまな形で指導・援助しようとするのが生徒指導の基本である。
本講義では、人格形成の途上にある生徒を理解することからはじめ、できる限り的確な生徒指導・援助するための手がかりとなる実践的知識と方法を教授する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
教科を学ぶ学習指導と生徒の人格形成を支援する生徒指導は、教育の要である。その生徒指導は、生徒一人一人が集団生活において円滑に適応し、学習活動を維持していく上での基盤となるものである。その意味で、これから履修する「教育方法論」や「特別活動の理論と方法」、「進路指導の理論と方法」などの科目と密接に関連するので、今後の学習を効果的に進めるためにも大切である。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕
生徒指導とは何か、生徒指導の意義という基本的なことを、単なる理論上だけでなく、実際の教育現場にあるという立場で理解し、考えていけるようになることを中間目標に設定している。
最終目標は、生徒指導を効果的に進めていくための具体的な方法（例えば、授業場面、特別活動場面における生徒との向き合い方、父母や地域の関係機関等との連携の取り方など）について、実践的な場面に即して対応できるようになることを想定している。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
講義では、できる限り参考となる事例を提示しながら授業内容に深みを持たせるように工夫する。また、事前に講義内容をまとめたプリント冊子を配布するので予習・復習に活用してほしい。

〔教科書〕
使用しない。講義内容に関して講師が作成した「プリント」（冊子）を事前に配布する。

〔指定図書〕
文部科学省『生徒指導提要』（令和４年）（文科省 HP でも閲覧できるが、個人で入手することを推奨する。）

〔参考書〕
講義の際に随時、紹介する。

〔前提科目〕
「教職概論」（1年次春学期開講科目）は、履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
復習をかねて道徳教育にも関心を持ってもらいた。評価レポートを提出してもらう。

〔評価の基準及びスケール〕
A:100～80 点
B:　79～70 点
C:　69～60 点
D:　59～50 点
F:　49～　0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
生徒指導に関する理論だけでなく、学校現場でのアップツーデートな事柄も取り上げるので、自分たちの中・高校生時代の生徒指導場面や出会った先生方を想い出しながら、どのように生徒と向き合うことが望ましいのかを各自が考えてほしい。

〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）： オリエンテーション（講義の概要と進め方） 内　容： 生徒指導の意義 生徒指導とは何か 教科書・指定図書　配布プリント
第２回	テーマ（何を学ぶか）： 生徒指導の歴史と理論 内　容： 生徒指導の歴史 生徒指導の理論的背景 教科書・指定図書　配布プリント
第３回	テーマ（何を学ぶか）： 学校における生徒指導 内　容： 生徒指導の組織的対応（「チーム学校」） 教科等における生徒指導 教科書・指定図書　配布プリント
第４回	テーマ（何を学ぶか）： 生徒理解と生徒指導 内　容： 生徒理解の観点 問題行動の理解と分類 教科書・指定図書　配布プリント
第５回	テーマ（何を学ぶか）： 生徒指導の事例（Ⅰ） 内　容： 中高生における問題行動（薬物、性の逸脱行動、長期欠席・不登校、引きこもりほか） 教科書・指定図書　配布プリント
第６回	テーマ（何を学ぶか）： 生徒指導の事例（Ⅱ） 内　容： いじめと「いじめ防止対策推進法」 自律神経症、発達障害（特別支援教育に関する合理的配慮ほか）への対応 教科書・指定図書　配布プリント
第７回	テーマ（何を学ぶか）： 生徒指導の課題と動向 内　容： 生徒指導と道徳教育 生徒指導とキャリア教育 ティーチングとコーチングについて 教科書・指定図書　配布プリント
試 験	期末試験は実施しない。レポート提出

（様式１）

〔科目名〕 教育課程論	〔単位数〕 １単位	〔科目区分〕 コモンベーシック （教職科目）

〔担当者〕 友田　博文	〔オフィス・アワー〕 時間:集中講義 場所:	〔授業の方法〕

〔科目の概要〕

・ 教育課程は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。
・ 教育課程論においては、学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数等の配当が教育課程編成の基本的な要素となっている。
・ 平成 21年 3 月に告示された新しい高等学校学習指導要領における教育課程編成の目標を理解するとともに、教育課程の意義や役割について理解する。
・ 平成25 年4 月から高等学校において新学習指導要領が本格実施されており、旧学習指導要領との違いも比較しながら高等学校の教育課程論を展開していく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・ 教育課程は高校における教育活動を定めるものである。このためには、学習指導要領の趣旨や目標をよく理解する必要がある。学校の状況や生徒の実態をよく理解する視点を身に付けることができる。
・ 特色ある学校づくりを進めるためには、なにより教育課程編成の創意工夫が欠かせない。教育課程論を学ぶことにより、教員になった際に、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程を編成することができる技能・知識を身に付けることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・教育課程論
・ 教育課程の意義や役割を理解できたか。
・ 新学習指導要領の改訂の趣旨・改訂内容を理解できたか。
・ 教育課程編成のための各教科、総合的な学習の単位数の概要を理解できたか。
・ 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項を理解できたか。
・ 中高一貫教育の中等教育学校等における教育課程の基準を理解できたか。
・ 生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程編成のためのノウハウを身に付けたか。
・ 諸外国の高校教育課程編成の概況を把握できたか。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
・教育課程論は学習する内容が多いので、全体像をできるだけ把握できよう、パワーポイントによって図や表を引用して教育課程論の理解を深めたい。

〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説「教育課程編」

〔指定図書〕
必要なときに提示

〔参考書〕
必要なときに提示

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- 授業中に課題あるいはレポートを書く
- 内容の詳細については、教育課程の講義開始時に提示される。
- 授業全体を通して総合的に評価する。
- 定期試験は講義や演習内容について論述試験を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

- 授業中の課題あるいはレポートを評価に加える。
- 配点等は、担当の教員から提示される。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 高校の教員免許取得に必要な教育課程論は、高校における教育内容を決める極めて重要な科目である。教育課程論の内容・趣旨を十分理解することによって、高校教員となった時に、生徒の幅多様な学習ニーズに対応した特色ある教育課程を編成する力を身に付けることができる。
- 受講する学生は2年次となり、これまで所定の教職科目を履修してきているので、それらの知識・技能を生かし、教育課程編論の具体的理論を学んでほしい。

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 教育課程編成の基準について 内　容: 学習指導要領改訂の趣旨、要点 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第2回	テーマ(何を学ぶか): 高等学校の教育活動における教育課程の意義と役割 内　容: 教育課程の変遷、教育課程の意義と役割 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第3回	テーマ(何を学ぶか): 教育課程の編成及び実施　その1 内　容: 教育課程編成の一般方針、各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第4回	テーマ(何を学ぶか): 教育課程の編成及び実施　その2 内　容: 各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動の授業時数等、教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項、単位の修得及び卒業の認定、通信制について 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第5回	テーマ(何を学ぶか): 教育課程編成の手順と評価 内　容: 教育課程編成の手順と評価、中等教育学校等における教育課程の基準 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第6回	テーマ(何を学ぶか): 演習「特色ある学校づくりのための教育課程の編成」 内　容: 特色ある学校づくりのための教育課程編成の創意工夫 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編
第7回	テーマ(何を学ぶか): 演習「諸外国の教育課程と教育課程改善の方向性」 内　容: 諸外国にみる教育課程編成と高校教育及び教育課程の今後の改善方向について 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説総則編

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
教育相談の理論と方法	1 単位	教職課程(必修)

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
鈴木郁生 Ikuo SUZUKI	**時間:**授業開始時に指示する **場所:**614 研究室	講義

〔科目の概要〕

本科目は、教育相談の理論と、その方法について学ぶ。これらの内容は、生徒達の抱える問題を理解し、生徒達を適切に援助していくために必要とされる知識である。具体的には、カウンセリングの理論や技法について学び、さらにいじめや不登校などの代表的な問題について理解を深める。更に、ロールプレイなども行いながら、教育相談の全体像について考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、教職課程における必修科目である。生徒達は学校の内外で様々な問題にぶつかるものであり、教師がそうした生徒達を適切に支援していくことが求められている。そのため教師として生徒と接するにあたっては、教育相談の理論や技法を学ぶことが重要である。また、相談を専門的に行うかどうかに限らず、カウンセリングマインドを理解し、それを基とした教育姿勢は教師として不可欠なものであろう。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

本科目の目標は、教育相談の理論と方法についての基本的な知識を修得することである。さらにカウンセリングマインドを理解し身につけていくことも期待している。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

良好な評価を頂いた。良い点として指摘された内容は、本年度も授業に取り入れていく予定である。

〔教科書〕

なし

〔指定図書〕

『カウンセリングの技法』 國分康隆　誠信書房
『カウンセリングの理論』 國分康隆　誠信書房

〔参考書〕

授業時に適宜紹介する

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

レポートによる評価を行う。また授業における課題への取り組みも評価の対象とする。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80 点
B: 79～70 点
C: 69～60 点
D: 59～50 点
F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
学生自身に考えさせ、理解を深めていくような授業を心掛けたい。受講者も未来の教師としての心構えを持って欲しい。また宿題やロールプレイに対しても積極的に取り組んでもらいたい。加えて、コロナ禍であるため、授業スケジュール等に変更が生じる可能性があること、それに関連して課題が課されることもありうることを理解してもらいたい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ（何を学ぶか）： オリエンテーション・性格の理論 内　容： 初回の授業であり、本授業の目的と授業展開についてオリエンテーションを行う。また、教育相談の趣旨、性格・人格の理論について概説する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 人格把握の手法 内　容： 知能検査・性格検査などを通し、人格把握の手法と問題点について解説する。 教科書・指定図書
第3回	テーマ（何を学ぶか）： カウンセリングの理論 内　容： カウンセリングに関わる理論や現象、心理療法などについて学ぶ。 教科書・指定図書
第4回	テーマ（何を学ぶか）： カウンセリングの技法 内　容： カウンセリングの構造や基本五技法について学ぶ。 教科書・指定図書
第5回	テーマ（何を学ぶか）： カウンセリングの実際 内　容： カウンセリングが教育現場で実際にどのように行われているのか、事例を通して学習する。 教科書・指定図書
第6回	テーマ（何を学ぶか）： 教育における問題行動について 内　容： 不登校・いじめ・非行など、教育における問題行動について学び、それをカウンセリング事例として考える。 教科書・指定図書
第7回	テーマ（何を学ぶか）： 教育相談の実際 内　容： いじめ・不登校・非行といった問題行動に対しどのように接するのかをロールプレイを通して学習し考察する。 教科書・指定図書
試 験	

（様式１）

〔科目名〕 特別支援教育論	〔単位数〕 １単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 神山　博	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕

〔科目の概要〕

本科目では、障害者の人権と特別支援教育の基本的な考え方を学ぶ理解することから始め、特別支援教育の制度と歴史、障害の特性と程度に応じた教育のとらえ方と方法を学んでいく。これらを通して、一人ひとりの教育を受ける権利と教育の必要性が障害の有無によらないことを理解したうえで、教職を目指す学生として、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒との望ましい関わり方を考えていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

発達障害を含む様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒は、通常の学級にも在籍しているが、彼らが授業等の学習活動に主体的に参加し学ぶことができるよう、学習上および生活上の特性と困難を理解したうえで、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していく必要がある。

本科目を学ぶことで、これらの対応をするために最低限必要な知識や支援方法を理解することができる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

最終目標:
個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

中間目標:
1. 発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
2. インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する理念、歴史、制度、教育課程や支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上および生活上の困難とその対応を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「毎回のレポート提出で、授業の内容がより深められる」「課題があることで、自分で調べて知識をつけられる」「子どもたちの障害などについて考えるとても良い機会になった」などの積極的な意見が多かったのは素晴らしいことです。課題として示された事例について実際に自分で考え、レポートにまとめることで、より深い理解につながりますので、是非積極的な受講を求めます。
「復習の時間が長すぎる」「授業の後半のペースがとても早い」という意見がありましたので、時間配分を見直したいと思います。

〔教科書〕
特別支援教育の基礎, 松山　郁夫 編著, 芳野　 正昭 編著, 学文社, 2020. ISBN:9784762029875

〔指定図書〕

〔参考書〕
特別支援教育の基礎理論 第２版, 斎藤佐和, 教育出版, 2016.

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

授業中の課題および定期試験(または期末レポート)により総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

履修規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

実践的に考える授業としたい。積極的に授業に参加するようお願いします。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 障害児者の人権および発達と教育 内　容: ・特別支援教育の基本的な考え方、・障害のとらえ方と社会の役割 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 公教育の進展と障害のある子どもの教育 内　容: ・特殊教育の成立と課題 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 特殊教育から特別支援教育への転換 内　容: ・最近の障害者施策をめぐる国内外の動向と制度整備 学校教育法改正・障害者基本法・発達障害者支援法・障がい者制度改革推進会議 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 特別支援教育を支える仕組みと専門性 内　容: ・障害別教育の概要(視覚、聴覚、知的、発達、肢体、病弱)、・発達の過程とアセスメントの意義・目的、個別の教育支援計画、特別支援教育コーディネーター、特別支援連携協議会等 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 教育課程の基本要素と個別の教育支援計画・指導計画 内　容: ・キャリア教育と進路指導・自立活動・情報機器の活用、・個別の指導計画作成の課題と方法 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 後期中等教育段階での生徒の現状と特別支援教育の課題 内　容: ・教育的支援、キャリア教育と就労支援 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): わが国の特別支援教育の課題と展望 内　容: ・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の支援、・近年の教育現場での課題と UDL の動き、・インクルーシブ教育の制度化と法整備 教科書・指定図書
試 験	

(様式1)

〔科目名〕 中等教科教育法 (商 業 Ⅱ)	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕

〔担当者〕 砂 場 孝一郎 Sunaba Koichiro	〔オフィス・アワー〕 時間 : 金曜日 12:00 ～ 12:50 場所 : 非常勤講師控え室	〔授業の方法〕 ⓐ

〔科目の概要〕

※ 高等学校教科「 商 業 」の指導法

※ 商業教育の理念、教育課程の編成方法、教育(授業)方法などについての認識と理解を得ること

※ 教科「商業」の、教育についての授業指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習を行う。

※ 2022年度(令和4年度)から、新学習指導要領が 学年進行で実施されていることと、その要点の指導。

※ 学校教育に関する法令全般の解説 と 教員としての資質の向上と人間性の確立を目指す指導。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・ 商業の専門高校では、20科目の専門科目が準備されている。

・ この20の科目は、4つの分野と分野共通の科目群に分かれ、それぞれの科目が実践する力を育むと同時に職業人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を育むように構成されている。

・ 商業教育に携わる教師は、広い見識でこれらの科目を通して商業教育を実践しなければならない。

・ よって、商業の教師を目指す学生は、大学 (本学) において、関連する教育法規と専門的な商業の知識・技術を体系的に学ばなければならない。

・ そして、学んだ者だけが、教員採用試験を受験する資格が得られ、教師への道が拓かれる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

1 中間目標

・ 商業教育の歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領の内容を学び、商業教育の現代的課題 及び
学校教育を支える校長等の役割 更には 教育現場で発生する事象を法的に学び理解させる。

・ 商業が現代において、どのような役割を持ち、どのような社会貢献ができるかを理解させる。

2 最終目標

・ 新学習指導要領実施の2年目であるので、新しい時代を学ぶ心の準備の重要性を理解させる。

・ 商業科教員としての資質 (知識 ・ 技術 ・ 心)の育成の重要性を理解させる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
・ 前年度の学生の授業評価は、素直であり、実際的であり、厳しい内容のものもあった。
・ 板書の多い授業であるが、板書(文字を手書きすること)の重要性を理解できる学生であってほしい。
・ この科目を、教員採用試験に対応できる授業内容にするように努めていきたい。

〔教科書〕
・ 高等学校学習指導要領解説 商業編、 ビジネス基礎、 新簿記、 情報処理 以上4冊
・ 上記教科書は、春学期 中等教科教育法(商 業 Ⅰ)において、4冊とも購入済みである。

〔指定図書〕

・ 必要な文献を随時指示する。

〔参考書〕
・ 青森県の教職・一般教養 過去問 当該年度版 協同教育研究会:編 協同出版株式会社
・ 青森県の教職教養 参考書 、 青森県の一般教養 参考書 協同教育研究会:編 協同出版株式会社

〔前提科目〕
・ 必要な教職科目を、修得または履修していること。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・ 学修の課題について ～ 教育現場で実際に課題として発生している課題(例 : 働き方改革)を取り上げ、
討論を実施する。
それらの内容を、レポートとして作成し、論点整理をして提出させる。

・ 評価の方法 ～ 学生の評価は、観点別 (関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解) 評価に
基づき、絶対評価の方法で厳正に行う。

・ テストについて ～ 最後の第15回授業の中で、筆記試験(知識・考え方)の方法で小テストを実施する。

〔評価の基準及びスケール〕

・ 評価の基準は、前述の「科目の到達目標」にどれだけ届いたかを確認するために作成する。
・ 具体的には、観点別(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解) 評価の項目に基づいて
絶対評価を行う。
・ そして、学生の授業内活動(模擬授業) ・ 授業への参加貢献が適切にできていたか否かによって、評価する。
また、小テストや出席(あるいは欠席)時数のみで、評価されることはない。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・ 高等学校教育に関する文部科学省の施策を理解し、教育に興味・関心を持てる高校教師を育成したい。
・ 学生に対しては、教員免許取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格をめざしてほしい。

〔実務経歴〕
・ 該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 新学習指導要領 と 商業教育の必要性と意義 「教科商業」の科目の内容 と 科目構成分野 教科書・指定図書 高校学習指導要領解説 ・「商業編」 ビジネス基礎、 新簿記、 情報処理
第2回	テーマ(何を学ぶか): 学校の組織 内 容: 校長・教頭・教諭等の役割 ※役割の具体的内容の確認 教科書・指定図書 高校学習指導要領解説 ・「商業編」
第3回	テーマ(何を学ぶか): 生徒の個人情報の記録と保護 内 容: 通知表と指導要領 ※法令上の規定 作成上の留意点 内 容: 教科「商業」の科目 「ビジネス基礎」指導の実際

第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：生徒の指導 内　容:　懲戒と体罰について ※懲戒と体罰の法的根拠　　体罰の判断基準 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：　教職員の服務 内　容：服務の意味　 服務義務　 服務専念義務 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：守秘義務の実際 内　容：秘密とは何か　 守秘義務違反の罰則　 児童虐待との関係 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の処分 内　容：懲戒処分と分限処分 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の兼職と兼業 内　容：教育公務員の制限と特例 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の選挙運動 内　容：教育の政治的中立性　と　公職選挙法 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)：　教員の研修制度 内　容：研修の重要性　 研修の態様と服務との取り扱い　 指導改善研修 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)：虐待 内　容：虐待の意味　 早期発見と通告義務　 青少年保護育成条例 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)：障害者基本法 内　容：同基本法の趣旨　 学校教育と　インクルーシブ教育 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)：　教育の方法と技術 内　容：教師の資質および教師という職業について 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説 ・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)：　教師に求められる資質　と　生徒の学習評価 内　容:　商業科教師への期待　と　観点別評価の方法と実際 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説 ・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育の指導方法のまとめ 内　容:　 中等教科教育法(商業Ⅱ)全体の総括 小テストの実施 教科書･指定図書　 高校学習指導要領解説 ・「商業編」　ビジネス基礎、　新簿記、　情報処理
試　験	最終授業(第15回)の中で、小テスト（60分）を実施する。

(様式1)

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
中等教科教育法（公民Ⅱ）		2単位	
〔担当者〕 長谷川　光治	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義・実習(模擬授業)

〔科目の概要〕

高等学校「公民」の授業の組み立て、学習指導案作成方法を理解し、実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行い、高等学校教育現場における「公民」の実践的な教科指導方法を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

高等学校「公民」の教科指導の、授業の組み立てや学習指導案作成を学ぶことは、教育実習に向けての準備、学校現場での実践力となる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

(1)教材研究と授業の組み立て方法を理解する。
(2)公民科の学習指導案を作成することができる。
(3)模擬授業を実践し、改善のための評価をする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の理解深度を確認しながら、指導案作成、教材研究、模擬授業の展開の具体的方法について授業をすすめていく。

〔教科書〕

〔指定図書〕

〔参考書〕

〔前提科目〕

中等教科教育法（公民Ⅰ）

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

教材の発掘事例、指導案の作成、模擬授業、「分析・考察シート」、
「自己評価シート」、 課題レポート

〔評価の基準及びスケール〕

指導案・模擬授業・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・課題レポート
を総合的に評価。
(A:100～80　B:79～70　C:69～60　D:59～50　E:49～0)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

「公民」の授業者となって教壇にあがることを意識し、授業に取り組むことを望みます。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：学習評価 内　容： 学習評価の意義と目的、観点別学習評価 、学習指導案と学習評価 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第２回	テーマ（何を学ぶか）：授業の組み立てと教材研究 内　容：教科書の活用と教材の発掘。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第３回	テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性⑴ 内　容：学習活動の形態。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第４回	テーマ（何を学ぶか）：「公民」の学習指導の特性⑵ 内　容：マスメディアと情報機器の活用。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第５回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の事例 内　容：「公民」各科目の指導案の事例。目標の設定、指導計画と観点別評価。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第６回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成⑴ 内　容：単元の目標・指導計画・評価。本時の学習展開。 （教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第７回	テーマ（何を学ぶか）：授業テーマの設定 内　容：模擬授業に向けて、授業テーマを設定。教材の発掘と研究方法の検討。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第８回	テーマ（何を学ぶか）：学習指導案の作成⑵ 内　容：模擬授業のための学習指導案（細案）の作成。 教科書・高等学校学習指導要領解説　教員作成資料
第９回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 ⑴ 内　容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第10回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 ⑵ 内　容：指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第11回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 ⑶ 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第12回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 ⑷ 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第13回	テーマ（何を学ぶか）：模擬授業 ⑸ 内　容： 指導案に基づいた模擬授業を行い、相互に検討する。 教科書・
第14回	テーマ（何を学ぶか）：学校における安全管理と公民の授業 内　容： 教員としての心構え。学校現場での行動。授業時における危機管理。 教科書・教員作成資料
第15回	テーマ（何を学ぶか）：公民科教育のこれから 内　容：新学習指導要領の特色の理解から、公民教育について討論・考察する。 教科書・教員作成資料
試 験	課題・レポート

〔科目名〕
教育実習

〔単位数〕
2単位

〔科目区分〕
教職科目(必修)

〔担当者〕
鈴木　郁生・内海　隆
Suzuki Ikuo・Uchiumi Takashi

〔オフィス・アワー〕
時間:
場所:

〔授業の方法〕
実習

〔科目の概要〕
実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関すもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教員への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕
教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限りなくすように配慮する。

〔教科書〕
なし。

〔指定図書〕
なし。

〔参考書〕
なし。

〔前提科目〕
「教育実習事前事後指導」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の2名の専任教員による。
なお、新型コロナ感染防止の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。

〔評価の基準及びスケール〕
A:100〜80 点
B: 79〜70 点
C: 69〜60 点
D: 59〜50 点
F: 49〜 0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえ実習に臨むことを期待し、実習期間中においては、可能な限り実習校を巡回指導して実習校との意思の疎通を図り、実習の成果が上がるように努める。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

実習期間(2〜3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で指導教諭のもと「ホームルーム指導」、「授業観察」や「研究授業」等を行う。

〔科目名〕 健 康 と ス ポ ー ツ Ⅱ		〔単位数〕 1単位	〔科目区分〕 アカデミック・ コモンベーシックス
〔担当者〕 今村 秀司	〔オフィス・アワー〕 **時間:** **場所:**		〔授業方法〕 実 技

〔科目の概要〕

スポーツは心身の発達を促し、人間性を豊かにし健康で文化的な生活を営む上で、極めて重要な役割を果たすものである。生涯にわたってスポーツの楽しさを享受し、健康や体力の維持増進を図っていくために広い視野からスポーツを選択し、自身の技術向上と基礎体力の充実を目指す。
更に仲間と協力することにより、協調性と責任感を身につけ、心身の健康についても配慮できるようにする。
そのために、多くの仲間と相手を変えながらゲームを展開するなど、より充実した活動を実践することにより、継続してスポーツ活動ができる能力や方法を身につけられるようにする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

スポーツは、人間の身体的・精神的欲求に応え、健康と体力を保持増進し、私達の人生を豊かで充実したものにしてくれる世界文化の一つです。「スポーツ」をすることは、単に趣味としての意味以外にも「健康と体力づくり」、「人づくり」、「仲間づくり」のための手段として価値があり、明るく活力のある社会の形成に大きく寄与する。ここに開講されるスポーツ実技は、スポーツの文化的側面を深く理解し、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたり健康な生活を営むことができるようになることを目指している。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

受講生の経験・興味・関心・技術に応じて、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術・応用技術を学びながらゲーム中心に学習する。実践に際しては、正式のルールをベースに、簡易ルールの採用も可とした攻防のゲームを行いながら、選択種目をさらに深く理解し、個々の技術向上と体力増進を図る。
また、仲間づくりや集団生活における自他の再発見の場として、スポーツ活動の楽しさを体感する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生からの要望があればそのつど可能な限り対応して行きたい。これまでも「授業評価」に基づき工夫・改善に努めてきたが今後も続けていきたい。

〔教科書〕

な し

〔指定図書〕

な し

〔参考書〕

な し

〔前提科目〕

な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

<u>選択したスポーツ種目の出席参加状況</u>、グループの一員として準備・後片付けへの参加、服装などの受講態度を総合的に判断して評価する。また、スポーツ・体育実技の評価については、原則として次の基準によって行なう。

① 運動の特性の理解度 ② 意欲・公正さ ③ 技術の習得度

・平常評価 100点
<u>選択したスポーツ種目の出席参加状況、</u>及び、受講態度による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80　B:79～70　C:69～60　D:59～50　F:49点以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・運動とは本来人間にとって大きな楽しみの一つであるが、基本的なルールや技術を身につけなければ楽しむレベルに到達することはできない。高校時代に厳しい部活動を経験してきた学生も多いと思われるが、別の視点にたって運動に取り組ませたいと考える。
学生諸君には、積極的に体を動かしよい汗をかくことを大いに期待したい。

・運動に適した服装とシューズで受講すること。（ワイシャツ、ジーンズ等は認めない。内靴外靴の区別をする。**体育館内では内靴を厳守**）
・コロナ禍三密を避けるためにも、更衣室の使用は密にならないよう工夫する。
・マスク着用について、十分な呼吸ができなくなるリスク・熱中症になるリスクを考えて柔軟に使用。

〔授業スケジュール〕

授業の目標を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目（バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球）の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。また、準備運動（アップ）・整理運動（ダウン）の重要性を理解させケガ防止の高揚に努める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や受講者が少なくチーム編成できない場合は、実施種目を制限することがある。

〔実施内容〕

・ スポーツ種目の選択、グルーピング、学習過程・安全についての説明。
・ 各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認。
・ 安全に身体運動、スポーツ活動を行うためのアップとダウンを**主体的に**実践できるよう確認。
・ ゲーム分析・戦術などの検討をし、**レベルアップした質の高い**攻防のゲームを目指す。
・ グループでの役割分担、仲間としての責任感と協力心を培う。

〔実施種目と内容〕

テーマ（何を学ぶか）：　**バレーボール**
内　容：　基本的な技術、ポジショニング等チーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い**攻防のゲームを目指す。
テーマ（何を学ぶか）：　**バスケットボール**
内　容：　基本的な技術、ディフェンス・オフェンスにかかわる戦術についてチーム内でゲームを通して学びながら、**質の高い**攻防のゲームを目指す。

テーマ（何を学ぶか）：　**バドミントン**
内　容：　各種ストロークやフットワーク等の基本技術とゲーム展開のための応用技術・戦術学び、ダブルス・シングルスのゲームを通して**質の高い**攻防のゲームを目指す。
テーマ（何を学ぶか）：　**卓　球**
内　容：　基本的な技術を身に付け、ダブルス・シングルスのゲームを通して応用技術の体得・戦術に工夫を加え**質の高い**攻防のゲームを目指す。

〔試験〕　試験は行わない。　出席状況、及び運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対して評価する。

〔科目名〕 法律と人間	〔単位数〕 ２単位	〔科目区分〕 教養科目 第２群(文化と社会)

〔担当者〕 廣瀬　孝壽 HIROSE, Koju	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義形式中心

〔科目の概要〕

本科目では、法律学を学ぶ学生のため、法律学の基礎知識及び学び方について講義する。講義が中心であるが、可能な限りアクティブラーニング(双方向の対話やグループワークなど)を行う。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

法律には、事件・事故を起こさないために予防する役割、そして、起きたときに解決する役割がある。よい社会にするために必要な法律を考えていただく。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

法律学の基礎的な内容を説明できる。

法的課題について法的三段論法で説明できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

今年度より担当する。

〔教科書〕

富永晃一ほか著『実践への法学入門(第2版)』(中央経済社、2022 年)

〔指定図書〕

指定しない

〔参考書〕

指定しない

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

定期試験にて評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

定期試験(100％)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
学生は、ノートパソコンを持参して、調査すべきときは調査に集中し、対話すべきときは対話するなど、集中して積極的に参加する。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 法律学の導入的説明 内　容: 法律学の導入的説明 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):法とは何か 内　容:「第1章 法とは何か」の講義 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):法の構造 内　容:「第2章 法の構造」の講義 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):法的三段論法 内　容:「第3章 法の適用(1) 法的三段論法」の講義 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):解釈 内　容:「第4章 法の適用(2)解釈」の講義 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):判例、学説、行政解釈 内　容:「第5章 判例、学説、行政解釈」の講義 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):まとめの解説 内　容:これまでの練習問題と解説 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):法分野の概観 内　容:「第6章 法分野の概観」の講義 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):調査と発表 内　容:「第7章 調査と発表」の講義 教科書・指定図書

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):判例の読み方、調べ方 内　容:「第 8 章 判例の読み方、調べ方」の講義 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):判例の射程 内　容:「第 9 章 判例の射程」の講義 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):解釈の限界 内　容:「第 10 章 解釈の限界」の講義 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):論述問題 内　容:「第 11 章 論述問題解説」の講義 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):総合問題 内　容:「第 12 章 総合問題解説」の講義 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):まとめの解説 内　容:これまでの練習問題と解説 教科書・指定図書
試 験	定期試験(選択記述式を予定)

（様式１）

〔科目名〕 総合的な学習の時間の指導法	〔単位数〕 １単位	〔科目区分〕 教職科目（必修）
〔担当者〕 坂本　徹	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義、演習

〔科目の概要〕
総合的な学習の時間の目標である、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにするための理論と高等学校を中心とした実践的指導法及び評価について学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を変えていくための資質・能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現するために、指導計画作成の考え方と基礎的能力を身に付けるとともに評価の留意点を理解することを学ぶ。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕
① 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
② 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につける。
③ 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
履修だけではなく、得させることを目標に、わかりやすい授業を心がける。

〔教科書〕
高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等

〔指定図書〕
使用しない

〔参考書〕
講義の中で必要に応じて紹介する。

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
テストおよび授業の取組状況（参加度、課題提出等）により評価する。

〔評価の基準及びスケール〕
Ａ：１００～８０点
Ｂ：　７９～７０点
Ｃ：　６９～６０点
Ｄ：　５９～５０点
Ｆ：　４９～　０点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
単なる知識の伝達に留まることの無いよう、私自身の経験に基づく具体的な事例を紹介するとともに、ワークショップの活用によって、実践的な力をつけられるような授業を心がける。

「総合的な学習の時間」が設定された経緯や、高等学校教育における「総合的な探求の時間」の意義を理解するとともに、実際の授業運営にあたって必要な知識と技術を習得し、加えて人間的な魅力として豊かな感性を磨いてほしい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: オリエンテーション ・高等学校の教育目的と学習指導要領 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第２回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 総合的な学習の時間設定の経緯とねらい ・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標を具体化するための指導内容と指導方法 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第３回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 総合的な学習の時間の展開 ・学校全体のカリキュラムと各教科との接点指導、及び関連づけの体系化 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第４回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 高等学校における実践事例と指導法 ・総合的な学習の時間の実践事例と指導案、生徒へのアンケートやインタビュー事例 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第５回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 指導計画案の作成 ・課題設定と指導計画案作成 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第６回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 模擬授業 ・模擬授業とピアレビュー 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
第７回	テーマ（何を学ぶか）: 内　容: 総合的な学習の時間の評価（まとめ） ・ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、生徒相互の評価を取り入れた主体的な言語活動のあり方 教科書・指定図書　高等学校学習指導要領解説「総合的な探求の時間編」及び教員作成のプリント等
試 験	授業内（第7回）でまとめの小テストを実施します。